

# 多血小板血漿療法と理学療法の併用は、多血小板血漿療法単独治療に比べて治療促進効果があるか

○中里仰志    鈴木優希    大川絢子

医療法人社団鴻愛会    こうのす共生病院

# 第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会 利益相反開示（COI）

発表者名：中里仰志、鈴木優希、大川絢子

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係  
にある企業などはありません

# はじめに

- 高齢者の変形性膝関節症（以下，膝OA）
  - 患者数：約2500万人うち症状（疼痛など）のある患者**800万人**を超える
  - 再生医療特に**多血小板血漿療法（以下，PRP療法）**が注目されている

【膝OA患者治療選択における再生医療の位置づけ】



本研究では、PRP療法と理学療法の併用による治療促進効果を検証

# 対象

対象項目	内容
対象人数	全63名 うち、38名 38膝 初回治療の患者
期間	2022年4月1日～12月までの8か月間
平均年齢	71.2± 8.9 歳
性別	女性31人／男性7人
膝の重症度 (KL分類)	Glade II : 6膝 Glade III : 19膝 Glade IV : 14膝

※除外対象者: PRP療法2回目以降の患者

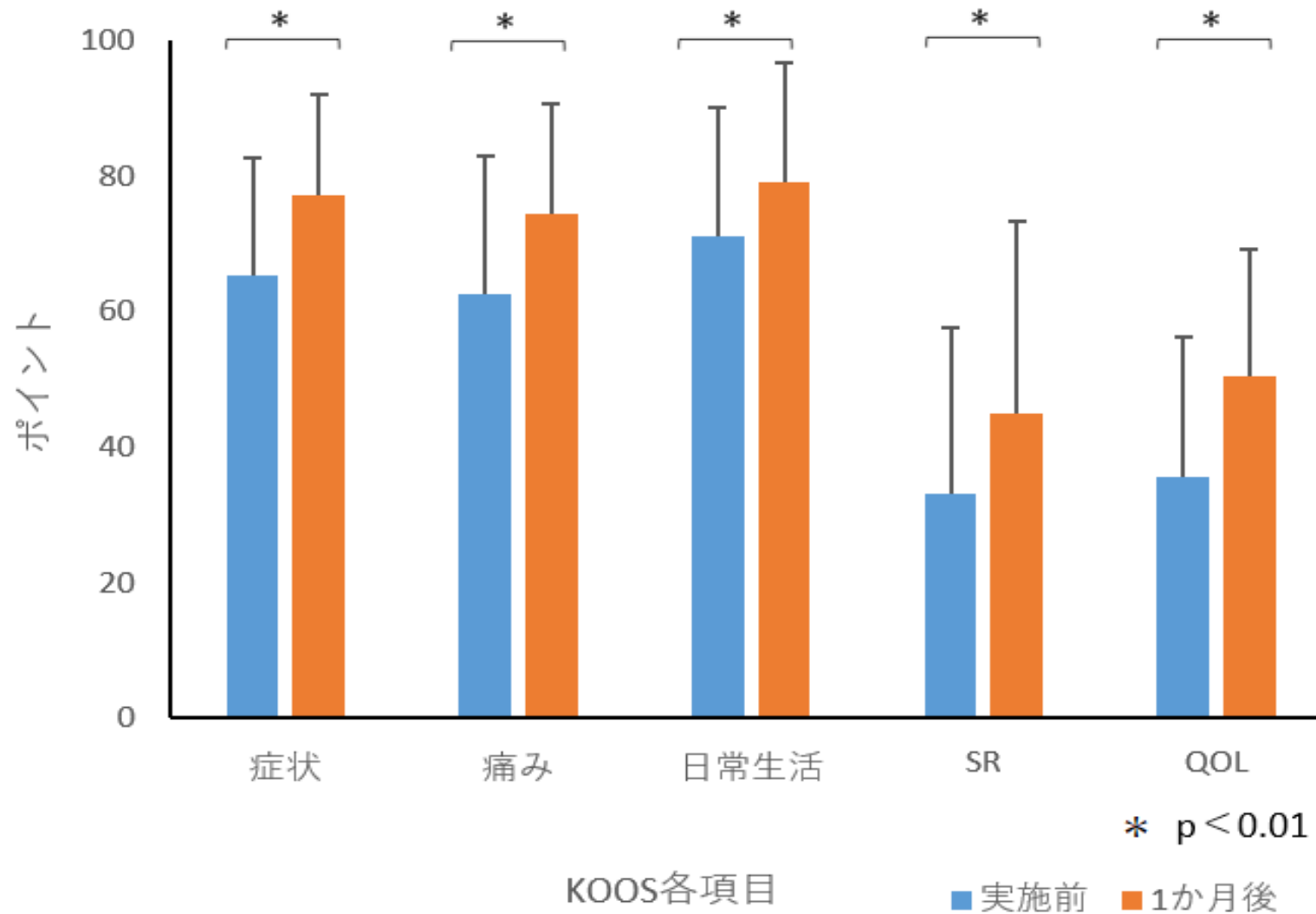
# 方法

PRP療法の実施前と実施1ヶ月後の  
Knee injury and Osteoarthritis Outcome Score (KOOS)の実施  
測定結果の平均値を算出し、対応のある t検定で有意差を求めた

また、内野ら<sup>1)</sup>の報告によるPRP療法単独の実施前ならびに実施1か月後のKOOS  
結果を示している文献データと比較した

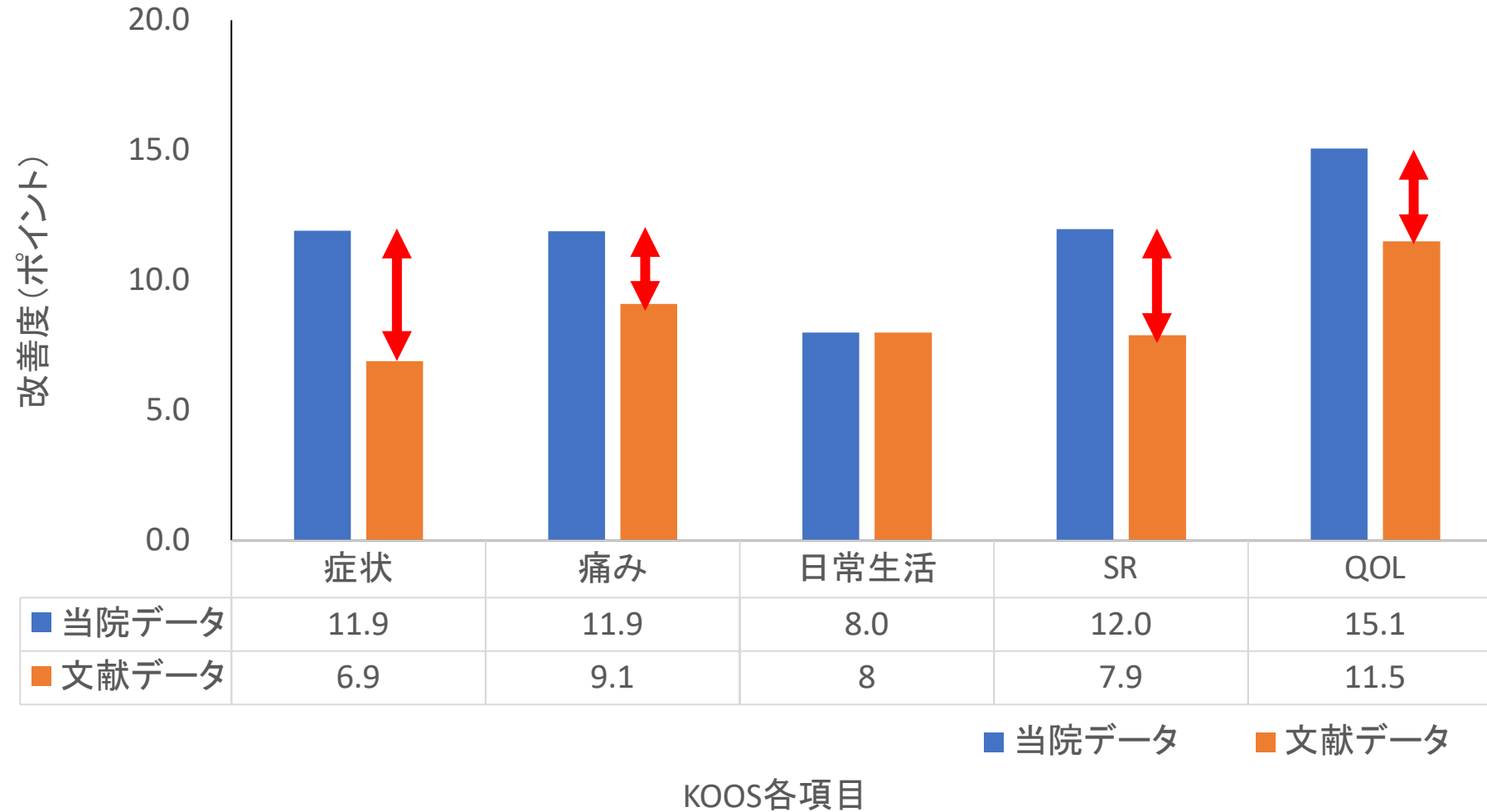
1) Sayuri Uchino, Yoshitomo Saita, Atsushi Wada, Yohei Kobayashi, Takanori Wakayama, Hirofumi: The immature platelet fraction affects the efficacy of platelet rich plasma therapy for knee osteoarthritis; Regenerative Therapy 18, 176–181, 2021

# 結果1 ～KOOSの比較～



すべての項目において、優位に改善が認められた

# 結果2 ～先行研究との比較～



5項目中、4項目で改善度の差を認めた

# 考察1

日常生活の項目を除いた項目で改善度が高かった理由

PRP療法の効果	理学療法の効果
抗炎症作用による 関節由来の痛み改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・軟部組織の延長</li><li>・筋膜組織の滑走性改善</li><li>・膝関節周囲筋出力の向上</li></ul>

PRP療法と理学療法を併用したことで、機能改善および患者満足度の促進効果に繋がったと考える



# 考察2

日常生活の項目にて改善度に差が認められなかった理由

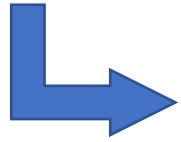
理学療法によるアプローチは1カ月という短期間における効果の促進を認めるが、日常生活動作に汎化させるには長期的な目線が必要と考えられた

# 7. まとめ

1. PRP療法と理学療法との併用は、PRP単独治療と比べて機能改善促進効果があると考えられた
2. 動作に関わる日常生活の項目に関しては、理学療法の介入による改善度の差は認めず、長期的な観察が必要なことが分かった

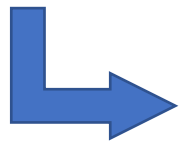
# 結語

- PRP療法の治療効果は理学療法の併用により通常より早い期間で得られやすい



効果の持続性に関しては不明確  
継続調査の必要性あるが費用と時間の点で  
病院としての運用方法に課題が残る。

- KL分類grade毎の結果については研究対象となる母数が少なく算出できない



母数が増え次第、grade毎の結果抽出の必要性あり



ご清聴ありがとうございました

倫理審査：

このす共生病院倫理審査委員会にて承認され、倫理規定に基づき実施  
(承認番号：20230306-1)